

社員の思いでつなぐ九州の電気

私たちは「ずっと先まで、明るくしたい。」という九州電力の思いのもと、社員一人ひとりが何としてでも電気を安定的にお届けするという“思い”で、日々、業務に取り組んでいます。

LNG(液化天然ガス)を海外から安定的かつ経済的に調達すべく、売主と厳しい交渉の

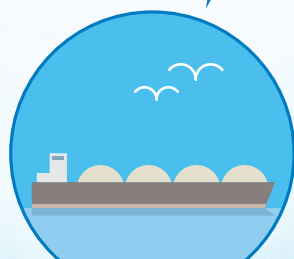
上、購入契約を結び、基地での受入、貯蔵、発電所への払い出しまでを担っています。

震災以降はLNGの需要が急増しており、10年以上の長期契約に加え、アフリカや南米などからスポットで追加調達を行っています。

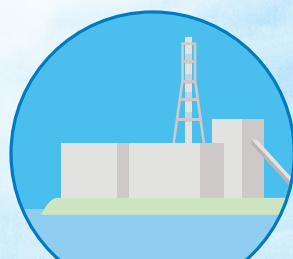
刻々と変動する市況の見極めや最適なタイミングでの受入等、難しい判断もありますが、「このLNGが電気に変わり、お客さまのもとへ届く」という使命感のもと、やりがいを感じながら業務に取り組んでいます。

「このLNGが電気に姿を変えて、お客さまに届く」
その使命感を持って、海外からLNGを調達しています。

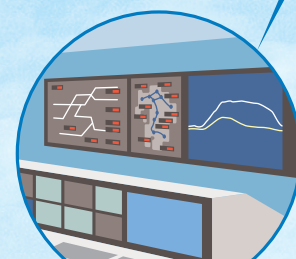
国際事業本部
LNGグループ
ひらい あきこ
平居 亜希子



タンカー・石炭船
海外から燃料を輸入



火力発電所
燃料で電気をつくる



中央給電指令所
電気の流れをコントロール

私の業務の1つに保守業務があります。それは、発電設備のパトロール等で発見される不具合箇所の修理を行うものです。



たとえ小さな不具合であっても、迅速かつ的確に1つずつ対応していくことで、大きなトラブルの未然防止に繋がっています。

新小倉発電所では、昨年の電力需給が逼迫した時期に緊急停止してしまいましたが、日々の適切かつ迅速な保守対応が、大きなトラブルの未然防止に繋がると考えています。

1件の保守対応にも、原因究明や修理方法の検討、工事の発注等、必要なプロセスは少なくありませんが、「地道に1つずつ小さな不具合をなくしていく」という思いで、これからも緊張感を持って日々の業務に取り組んでいきます。

新小倉発電所 保守グループ
さめしま ともあき
鮫島 友章



お客さまに安心して電気を使っていただくことを常に考えながら、時々刻々と変化する電力需要に対応しています。



私が勤務する中央給電指令所では、お客さまが使用される電気の量に応じて、発電所の出力を調整する業務を行っています。

電気は貯めておくことができないため、常に需要と供給のバランスをとる必要があります。そのため、中央給電指令所では、九州全体の電気の状況を24時間監視し、天候や気温の変化に応じて効率的な電源構成を考え、運用を行っています。

深夜の勤務や設備トラブル時の対応など、大変な面もありますが、「安定した電気をお客さまにお届けする」という使命を果たすため、責任とやりがいを感じながら勤務しています。

電力輸送本部 中央給電指令所 運用グループ **だいたい りょうた 橙 良太**

私は、福岡都市圏に電力を供給する地中ケーブルの設備保全及び改修工事を担当しています。

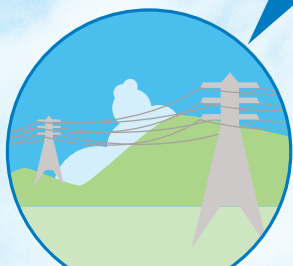
ケーブルは、道路の地下に埋設されているため、作業のほとんどが夜間に行われ、安全性確保にも細心の注意を払いながら行っています。また、ケーブルの経年劣化が進んでいるため、年間約500箇所を対象に、定期的な劣化診断を行い、設備の健全性を確保しています。

設備の保全にあたっては、これまで培ってきた技術力をフルに発揮し、高経年化したケーブルを有効活用しつつ、如何にして電力の安定供給とコスト低減を両立していくかを常に考え、業務改善に取り組んでいます。



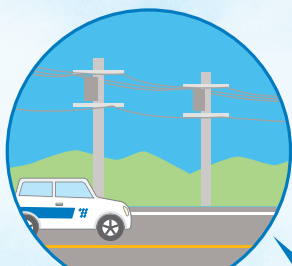
福岡電力センター 地中送電グループ **のりむら なおき 法村 直樹**

福岡の道路の下に眠る膨大な地中ケーブル。電力の安定供給とコスト低減の両立に取り組んでいます。



送電線・鉄塔

大きな電気を送る



配電線・電柱

九州の隅々まで電気を届ける



九州のまち

九州北部豪雨災害においては、河川の氾濫や土砂災害、倒木が多数発生し、八女市内を中心に各地で大規模な停電が発生しました。

山間部では、道路の多くの箇所が遮断されるなど、復旧作業は困難をきわめました。孤立した被害現場へは、作業員が崩れた道路脇や川の中を、復旧機材を担いで歩くなど、関係者一丸となって懸命に取り組みました。

「被災された方々へ一刻も早く電気を届けたい」という強い思いを当社社員だけでなく、協力会社のみなさまからも感じる事ができ、これこそが私たちの使命なのだと感じました。

「被災された方々へ一刻も早く電気を届けたい」これが協業会社のみなさんも含めた私たちの使命です。

福岡お客さまセンター 業務運営部 (当時は八女営業所 配電技術グループ)

こだま ゆうじ 児玉 祐治

